

姉妹都市提携 30 周年記念タスカルーサ市派遣 習志野市民訪問団に参加しました 謝辞とともに別れに歌った『ふるさと』

尾黒 治夫（国際交流部会長）

この度習志野市国際交流協会が主導する市民訪問団（学生 4 名及び一般・協会会員 5 名）は、公式訪問団（団長宮本市長他 8 名）と共にタスカルーサ市の記念行事に参加してきました。

台風 9 号上陸のため、出発は予定の翌日 8 月 24 日早朝となりました。訪問団一行はアトランタを經由して、約 16 時間遅れの 24 日昼、タスカルーサ市に到着しました（現地の時差は日本－14 時間）。

到着後は、同じくタスカルーサ市と姉妹都市の関係にあるドイツのショードルフ市とアフリカ・ガーナのスヤニ市からの訪問団と合流し、早速メルセデスベンツ工場見学（公式訪問団のみ）、バーミングハム市の公民権運動博物館見学などを開始しました。その夜は 6 名がホストファミリー宅で、また他の 3 名はホテル泊で 4 日間の滞在生活が始まりました。

翌 25 日は市内の IT 企業のショールームを、そしてアルバータ演劇校での子供たちの歌や楽器演奏を楽しみました。ここゲートウェイは 2011 年 4 月の大型ハリケーンにより甚大な被害を受け、その後再開された地区だそうです。その夜、今回のメインイベント姉妹都市調印式及び晩餐会が開催され、マドックス市長と 3 カ国市長の調印式、挨拶、記

念品贈呈などに出席者から大きな拍手が送られました。200 名近いその中には、2～4 年前に習志野市を訪れたタスカルーサ市高校生（今は大学生あるいは社会人）10 数人も含まれ、当時習志野のホストファミリーを努めて彼らを知る我が訪問団メンバーとの再会を果たして喜ぶ姿、さらにお互いの友好を育む姿も印象的でした。

3 日目はバスで 2 時間ほどの NASA 宇宙・ロケット博物館を見学。その夜、アラバマ大学キャンパスでバーベキュー・パーティーが催されました。アイスティーを片手に長い行列の後に食した肉の味…それはともかく、特筆すべきは宮本市長と我が男子高校生畑中君が飛入り出演した和太鼓演技でしょう。初公演とは思えないお 2 人の勇壮な太鼓の響きに、会場は大いに盛り上りました。

27 日朝は公式訪問団皆さんの出発をホテルでお見送り。ホテルに残った我々は協会役員の案内で名所見物、また他のメンバーもホストファミリーと残り少ない時を楽しく過ごしたようです。

28 日は我が訪問団もタスカルーサ市を離れる日…、リサさん、ホストの皆さんにもう一度謝辞を述べ、そしてこの時のために皆で練習してきた（？）童謡「ふるさと」を歌ってお別れしたのでした。



姉妹都市調印式



市民訪問団結団式